2025-26 年度戦略計画委員会活動計画

委員長　平井 義郎

今までの戦略計画委員会の進め方に対し少し角度を変えていく予定です。
今までの流れから「ビジョン」の設定→クラブ戦略計画→行動計画推進と大枠から詳細へ向かう手法でした。しかし、クラブの委員会活動、会員の諸活動などがなかなか思うように進んでいないことを見据え、逆にクラブ内の活動の強化→戦略計画の立案→行動計画の推進そして、「ビジョン」としてまとめる。という流れの方が理解しやすく取り組みやすいのではないかと考えています。

ガバナー補佐や地区委員会はクラブが取り組むための支援を行います。

ガバナー補佐、地区各委員会の役割

ガバナー補佐はクラブと地区の間に入ってクラブ活動の支援、諸問題の相談窓口となり、ガバナーへ報告し、対応するために行動します。

一例を挙げると小規模クラブに対する支援の一環として、分区内のクラブの合同奉仕活動の企画立案などを検討し推進することも必要です。

その際クラブ負担を一律に行うのではなく人数割を検討するなど小規模クラブに配慮することも検討すると良いでしょう。

地区委員会の役割

1.ガバナーの方針に基づく活動と地区運営に関する連携と協力
2.地区内クラブへの情報提供と専門分野の活動支援

これらの共通した目標は、ロータリーが末永くあり続け世界のために良いことを行うためです。目的達成のため必要なことはクラブが活発に活動することですが、そのために地区委員会が支援することになります。

ロータリーは自分の時代だけではなく、次世代、次々世代へと受け継がれていきます。

末永くクラブが存在し、活動を続けるために、常に次世代を担う会員の存在が必要です。

日本のロータリーは会員減少に歯止めがかからず 2025 年 4 月末日時点で 2,195 クラブ 83,312 人となりました。

ロータリーの会員数は多くのデータが示すように右肩下がりが続いており、クラブ、地区、RI は CLP、中核的価値観、ビジョンと戦略計画、行動計画推進など、また、ロータリーの組織規程の緩和として、例会回数、メークアップ、一業種一人という職業分類の制約撤廃など、クラブが活性化するよう、さまざまな手法を考え推進してきましたが、成果があまりあがっていません。

これらの手法は「やらされる」のではなく、「**クラブがより良い形となるために取り入れて実行してはいかがか**」という提案としてみるべきでしょう。

今年度に入ってからは行動計画推進として 3 か年計画が進められ、昨年 9 月に地区内各クラブの行動計画推進リーダー設置を依頼し 45 クラブ 51 名の登録がありました。

2025-26 年度ロータリークラブ・ラントラルの目標登録は半数に満たず 26 クラブです。

クラブ行動計画推進リーダーはクラブ会長指導のもと、委員会が作成した目標をとり纏め、ロータリークラブ・セントラルへの現在及び次年度の入力を行い、毎月各委員会から進捗状況を入力します。

多くのクラブでは、委員会そのものの開催が少ないという 2022 年度のアンケート結果が出ています。

クラブ委員会の開催頻度

毎月 1 回以上開催	9
年に 4～5 回開催	21
ほとんど開催していない	12

委員会活動は、クラブ活動の基礎であり、委員会活動を通して会員相互のコミュニケーションを図り、ロータリーの知識を醸成し、将来のクラブのリーダーとなるための大切な機会の場と考え、開催することを推進しなければなりません。

その他	5
合計	47

委員会の開催時間

1 時間未満	19
1-2 時間	12
2 時間以上	4
合計	35

委員会の後懇親会

毎回必ず	13
時々開催	16
懇親会はしない	6
合計	35

この実現のために、クラブ会長は委員会開催予定を作成、提出するにあたり自らも参加することが必要です。それらの作業プロセスを通して目標を決定し、ロータリークラブ・セントラルへ入力することが委員会の活性化、クラブ活性化に繋がる良い機会と捉えるべきです。

クラブ委員会の年間活動計画策定と実施にあたってはガバナー補佐や地区の各委員会が相談相手、支援する立場として協力していくことが期待されています。

今年度はこれらのことを重点目標として活動してまいります。

なお、2022 年度に纏めた戦略計画委員会　アンケート調査報告書は以下の URL から入手できます。

https://ri2530-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/2530office_ri2530_onmicrosoft_com/EbP7Gn9AomtOiwoQo0ubqB0BzQGXgqQHMQq3Q12sDWHlDA?e=ayJfb2